

第53回日本免疫学会学術集会

The 53rd Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology

趣意書

会期	2024年12月3日（火）～5日（木）
会場	出島メッセ長崎（長崎市）
学術集会長	大野 博司（理化学研究所生命医科学研究センター（IMS））
副会長	金井 隆典（慶應義塾大学） 川上 純（長崎大学） 新蔵 礼子（東京大学 定量生命科学研究所） 長谷 耕二（慶應義塾大学）
事務局長	佐藤 尚子（理化学研究所）
ホームページ	https://www2.aeplan.co.jp/jsi2024/ （2024年1月OPEN予定）

会長挨拶

第53回日本免疫学会学術集会会長を務めさせていただきます、理化学研究所の大野博司でございます。本学術集会は、2024年12月3-5日の3日間、2021年に新たに開業した長崎駅直結の国際会議場「長崎出島メッセ」で行います。長崎・出島はかつて海外に開かれた日本の唯一の玄関口として海外の文化・知識の吸収の重要な拠点でした。その出島の名を冠する会場での開催は、まさに国際化を推進する日本免疫学会の学術集会に相応しいと考えます。

世界中で猛威を振るったコロナウイルスのパンデミックも収束に向かい、人々も既にその存在すら忘れ去ったかのように行き交っています。しかし、私達免疫学者は決してこの経験を過去のものとして記憶の彼方に追いやることなく、次なる未知のパンデミックに備える必要があります。例えばワクチンの重要性を世界中が再認識しましたが、本邦ではワクチンの副反応などに対する誤った認識の流布による心理的アレルギーなどにより、ワクチン開発競争力の低下からコロナワクチン開発で世界に遅れを取りました。また、全国で一斉にコロナワクチン摂取が行われた結果比較的短期間に大規模なデータ収集が可能となり、その効果や副反応について個体差が大きいことも再認識されました。このように、免疫ということば、概念が世間に広く浸透した中、第53回日本免疫学会学術集会会長を拝命しました。

日本免疫学会は1971年に設立された我が国の医学会を代表する学会の一つです。コロナ下ではありましたが2021年には50周年を迎えました。この間、世界の免疫学研究は分子生物学的手法、遺伝子改変動物技術、網羅的遺伝子解析技術などの開発と共にめざましい進展をみせ、医学生物学の分野における多くの新しい発見をもたらしてきました。その中で我が国の免疫学研究は、特にサイトカイン研究などを中心に一貫して先導的な役割を果たしてきたことは世界が認めることです。日本免疫学会は、この我が国の免疫学研究の中心拠点として活動してきました。2005年には、任意団体からNPO法人として生まれ変わり、さらに活発な活動を展開してきております。現在、会員数3,600名を超える我が国でも有数の学会であり、学術集会の他、国際専門誌International Immunologyの発行、学生や若手研究者の研修会（免疫サマースクール）、一般の人達への啓蒙活動（免疫ふしぎ未来）など多彩な活動を進めています。2010年8月には、神戸・大阪・京都の関西地区にて、3年に1度の国際免疫学会が岸本会長の元に開催され、世界中から6,000名近い研究者が集い、世界の免疫学研究の先導役としての面目を果たしました。

我が国は今、これまで人類が経験したことのない超高齢化社会を迎えつつあります。この中で、死因の第一位であるがんや、記憶に新しいコロナウイルスのパンデミックも含め2050年までにがんを抜いて世界の死因第一位になるとWHOも予想している感染症、さらには予備群も含めると我が国の人口の約5人に1人が罹患している糖尿病や心血管疾患の原因ともなる慢性炎症、人口の約1/3が何らかの症状を持ち国民病ともいわれるアレルギーなど、社会的な健康課題は言うに及ばず、100を超える多くの難病のほとんどに免疫異常が関与していることを考えれば、免疫学研究の重要性は論を待ちません。さらに近年、腸内細菌叢に代表される環境因子が免疫制御や疾患の発症に大きく関わっていることも明らかになってきました。医学生物学研究は仮説検証型研究から、1細胞解析を含む各種オミクスデータや複雑な細菌叢メタゲノムデータなどのビッグデータ・メタデータを扱う数理・システム生物学に基づくデータ駆動型研究が主流となりつつあります。、これまでの免疫学はともするとマウスを主体とするモデル生物による詳細な分子メカニズムの解明が主流でしたが、モデル生物とヒトの違い、さらには上述したコロナワクチンの効果や副反応、また抗癌剤の効果や副作用における個人差が明らかになると共に、ヒト免疫学の重要性がクローズアップされています。そこで、これからの免疫学は、免疫系と他の高次機能システム（神経系、内分泌系、消化器系など）の時系列データによる免疫老化を含む多臓器連関、さらには腸内細菌叢に代表される環境因子との関係について、ヒトとモデル生物のデータの融合による統合的なデータ駆動型研究をめざす必要があります。

そこで第53回の学術集会は、「臨床との融合により更なる高みへ～From fusion with clinical practice to push immunology to a next step～」というテーマの元、日本消化器免疫学会（会期は12月5-6日）との合同開催と致します。臨床系の研究者が多く集う日本消化器免疫学会との合同により、ヒト免疫学に向けたディスカッションが寄り深まることを期待します。第47回（2018年）にも日本消化器免疫学会と一部合同開催致しましたが、今回はもう1歩踏み込んで、どちらの学会で参加登録しても、両学会の全日程（12月3-6日）の全てのセッションに参加可能、ということに致しました。また、クリニカルセミナーの充実も重点目標としております。

また、学会の国際化の視点では、従来のドイツ、韓国、オーストラリア・ニュージーランド、フランスの免疫学会との連携に加え、さらに国際粘膜免疫薬器会（Society for Mucosal Immunology）との合同シンポジウムも企画しておりますので、是非、多くの皆様のご参加をお待ち致しております。

第53回日本免疫学会学術集会

会長 大野博司

理化学研究所生命医科学研究センター（IMS）副センター長



<開催概要>

会議の名称

第53回日本免疫学会学術集会

主催

特定非営利活動法人日本免疫学会

実行委員会

学術集会長 大野博司（理化学研究所生命医科学研究センター（IMS））

副会長 金井 隆典（慶應義塾大学）

川上 純（長崎大学）

新蔵 礼子（東京大学 定量生命科学研究所）

長谷 耕二（慶應義塾大学）

事務局長 佐藤 尚子（理化学研究所）

会期

2024年12月3日（火）～5日（木）

日程	午前	午後
12月3日（火）	オーバービュートーク、シンポジウム、評議員会、Clinical/Technical Seminar、ポスター、機器展示会	ワークショップ、Afternoon Seminar、イブニングセミナー、ポスターセッション、機器展示会
12月4日（水）	オーバービュートーク、シンポジウム、Clinical/Technical Seminar、ポスター、機器展示会	ワークショップ、Afternoon Seminar、総会、受賞記念講演、ポスターセッション、機器展示会、懇親会
12月5日（木）	オーバービュートーク、シンポジウム Clinical/Technical Seminar、ポスター、機器展示会	ワークショップ、ポスターセッション、機器展示会

会場

出島メッセ長崎（〒850-0058 長崎県長崎市尾上町4-1）

開催概要

- ① 会議の構成 オーバービュートーク、シンポジウム、受賞記念講演、Technical/Clinical/Afternoon Seminar 等の各種セミナー、ワークショップ、ポスター発表、機器展示会、懇親会
- ② 使用言語 日本語・英語
- ③ 参加予定国 米国、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア、スイス、オーストリア、スウェーデン、オーストラリア、中国、韓国、東南アジア諸国、日本、他
- ④ 予定発表演題数 700 演題
- ⑤ 予定参加者数 2,000 名
- ⑥ 出版物の有無 あり（プログラム集）

会議の目的と概要

日本免疫学会は1971年に設立された我が国の医学会を代表する学会の一つです。コロナ下ではありましたが2021年には50周年を迎えましたが、この間、世界の免疫学研究は分子生物学的手法、遺伝子改変動物技術、網羅的遺伝子解析技術などの開発と共にめざましい進展をみせ、医学生物学の分野における多くの新しい発見をもたらしてきました。その中で我が国の免疫学研究は、特にサイトカイン研究などを中心に一貫して先導的な役割を果たしてきたことは世界が認めるところです。日本免疫学会はこの間、我が国の免疫学研究の中心拠点として活動してきました。

2005年には、任意団体からNPO法人として生まれ変わり、さらに活発な活動を展開してきております。現在、会員数3,600名を超える我が国でも有数の学会であり、学術集会の他、国際専門誌の発行、学生や若手研究者の研修会（免疫サマースクール）、一般の人達への啓蒙活動（免疫ふしぎ未来）など多彩な活動を進めています。2010年8月には、神戸・大阪・京都の関西地区にて、3年に1度の国際免疫学会が開催され、世界中から6,000名近い研究者が集い、世界の免疫学研究の先導役としての面目を果たしました。

我が国は今、これまで人類が経験したことのない超高齢化社会を迎えつつあります。この中で、死因の第一位であるがんや、記憶に新しいコロナウイルスのパンデミックもありましたが2050年までにがんを抜いて世界の死因第一位になるとWHOも予想している感染症、さらには予備群も含めると我が国の人口の約5人に1人が罹患している糖尿病や心血管疾患の原因ともなる慢性炎症、人口の約1 / 3が何らかの症状を持ち国民病ともいわれるアレルギーなど、社会的な健康課題は言うに及ばず、100を超える多くの難病のほとんどに免疫異常が関与していることを考えれば、免疫学研究の重要性は論を待ちません。さらに近年、腸内細菌叢に代表される環境因子が免疫制御や疾患の発症に大きく関わっていることも明らかになってきました。医学生物学研究は仮説検証型研究から、1細胞解析を含む各種オミクスデータや複雑な細菌叢メタゲノムデータなどのビッグデータ・メタデータを扱う数理・システム生物学に基づくデータ駆動型研究が主流となりつつあります。、これまでの免疫学はともするとマウスを主体とするモデル生物による詳細な分子メカニズムの解明が主流でしたが、モデル生物とヒトとの違いが明らかになると共に、ヒト免疫学の重要性がクローズアップされています。そこで、これからの免疫学は、免疫系と他の高次機能システム（神経系、内分泌系、消化器系など）の時系列データによる免疫老化を含む多臓器連関、さらには腸内細菌叢に代表される環境因子との関係について、ヒトとモデル生物のデータの融合による統合的なデータ駆動型研究をめざす必要があります。

日本免疫学会学術集会は、毎年国内のみならず世界中から2500名以上の免疫研究者が一堂に会し最新の研究成果を発表し議論する本学会の最も重要な集会です。国際化を標榜し約10年前に完全英語化に踏みきった甲斐もあり、特にアジアを中心に世界中から一般参加者が着実に増えています。第53回学術集会は、2024年12月3日～5日に、2021年に新たに開業した長崎駅直結の国際会議場「長崎出島メッセ」で行います。学術集会では例年通り、国内外の第一線の研究者による最先端課題の国際シンポジウム、会員によるテーマごとのワークショップ、各種の教育・技術セミナーなどを企画しています。また、ヒト免疫学への展開の一環として、臨床系の学会である日本消化器免疫学会（12月5～6日）と合同で行います。日本消化器免疫学会との合同開催の試みは第47回（2018年）にも行われておりますが、このときは1日だけの合同開催で、2つの粘膜免疫関係のシンポジウムを行いました。今回はもう1歩踏み込んで、どちらかの学会に参加登録することで、両学会の全てのプログラムに参加可能に致します。また、国際化の一環として、各国の免疫学会との共催シンポジウムに加え、国際粘膜学会との共催シンポジウムも企画します。

上記の社会的背景と国民的要請に鑑み、生命原理の理解を基礎にヒトの多くの疾患や難病の克服と健康維持に資する学術集会とすべく、鋭意準備を進めております。国際化を進める日本免疫学会の学術集会に相応しい、かつて海外に開かれた日本の玄関口であった長崎・出島の名を冠する会場で開催する第53回日本免疫学会学術集会の目的・趣旨にご賛同いただき、何卒、ご支援の程深くお願い申し上げます。なお、拠出いただきました協賛金につきましては、日本製薬工業協会の「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」に基づき、各社が公表することについて了承いたします。

演題登録期間（予定）

2024年6月3日（月）～7月12日（月）

事前参加登録期間（予定）

2024年6月3日（月）～10月31日（木）

振込口座

銀行名 みずほ銀行

支店名 九段支店（532）

種別・番号 普通 3273598

口座名 第53回日本免疫学会学術集会

（ダイゴジユウサンカイニホンメンエキガツカイガクジユツシユウカイ）

適格請求書発行事業者の登録番号（インボイス番号）

特定非営利活動法人日本免疫学会

T9010005008442

＜ スポンサー ランク ＞

第 53回日本免疫学会学術集会においては、以下のとおり、協賛金合計額に応じてスポンサーランクを設定し、記載の特典を設けております。協賛金額には、下記のすべてを含みます。

- ◇ 共催セミナー(臨床セミナー・テクニカルセミナー・イブニングセミナー)
- ◇ 広告(プログラム集・ホームページバナー広告・幕間スライド・配信システムバナー広告)
- ◇ 展示(現地展示会・オンライン展示会・オンライン企業交流会)
- ◇ 賛助寄付金
- ◇ その他

■ スポンサーランク別特典

スポンサーランク	参加証	ホームページ	プログラム集 (謝辞ページ)	オンラインシステム (TOPページ)
プラチナスponsor 協賛金3,300,000円以上(税込)	10枚	ロゴ(大)掲載	ロゴ(大)掲載	ロゴ掲載
ゴールドスponsor 協賛金2,200,000円以上(税込)	5枚	ロゴ(中)掲載	ロゴ(中)掲載	ロゴ掲載
シルバースponsor 協賛金1,100,000円以上(税別)	5枚	ロゴ(小)掲載	ロゴ(小)掲載	/
ブロンズスponsor 協賛金550,000円以上(税別)	/	ロゴ(小)掲載	ロゴ(小)掲載	/

上記ランク共通特典：総会・評議員会・理事会で謝辞、謝辞パネル設置

＜ 参加証について ＞

スポンサー特典の参加証では、オンライン視聴システムの使用が可能です。
是非ご活用ください。

＜ オンラインシステム (TOPページ) ロゴ 掲載イメージについて ＞

The screenshot shows the Confite website interface. The main content area features the Confite logo and the text "20xx年Confite学会学術大会". Below this, the dates and location are listed: "会期 20xx年7月1日(水) - 3日(金)" and "会場 神保町国際会議場". On the right side, there is a "マイメニュー" (My Menu) section with a search bar and a "過去の大会はこちら" (Previous Conferences Here) link. The "過去の大会はこちら" link is circled in red, and the "JSI" logo is visible in the menu area.

※実際の仕様と異なる場合があります。

< 共 催 セ ミ ナ ー >

Clinical Seminar / Technical Seminar/Evening Seminar

貴社の学術・研究活動に関連した医薬品・生物学的製剤等による免疫疾患や感染症の診断、治療・予防の進展などをご紹介いただく Clinical Seminar、または貴社が扱う最新の医学・生命科学関連試薬・技術・機材・機器等を使った実験法などやアレルギー・免疫疾患・癌・感染症研究に関連する最新の機器紹介を通じて基礎研究・応用研究・開発研究の融合の場となる Technical Seminar としてご企画いただければ幸いと存じます。これらのセミナーの開催は、貴社の活動を当学会員・参加者に広く周知していただける良い機会としてのみならず、当学会員・参加者にとりましても日々の研究活動に臨床からの新しい視点を取り入れるための絶好の機会となることから、更なる免疫学研究の進展に貢献できるものと考えます。本セミナーの開催についてご検討いただきますよう、深くお願い申し上げます。なお、第 53 回日本免疫学会学術集会共催セミナーにつきましては、現時点では現地開催を予定しております。数に限りがありますので、お早めのご検討とお申し込みをいただけますと幸いです。

開催経費 600席 ¥2,200,000-(税込)
150席 ¥1,870,000-(税込)
講演者・座長の旅費、謝金、参加者用お弁当(現地開催で11:40-12:40の枠)
控室飲食(現地開催時)等は、別途各企業様のご負担となります。

開催日時 1) Clinical Seminar/Technical Seminar
2024年12月3日(水)～5日(金) 11:40-12:40
2) Evening Seminar(150席の会場のみ)
2024年12月3日(水) 18:40-19:40

開催場所 会場は未定です。お申込み時には、大中小会場よりご希望を記載してください。
先着順にてご希望は考慮いたしますが、各サイズに限りがございますので、ご希望通りにならない可能性もございますことをご了承ください。最終的には全体のバランスも鑑み、主催者にて決定とさせていただきます。
大会場 約 500 席、小会場 約 150 席

募集数 クリニカルセミナー、テクニカルセミナー 合計18枠(3日合計)

申込方法 学術集会ホームページよりお申し込みをお願いします。

申込締切 2024年8月16日(金)

振込期日 2024年9月30日(月)

その他 聴講者数の報告

※日本免疫学会からのお願い

- ① セミナーの開催は原則として日本免疫学会との「共催」とさせていただきます。
- ② 会場および開催日の割り当てにつきましては、基本的に「お申込先着順」とし、いただいたご希望の日程、会場を考慮した上で、実行委員会にて調整、最終決定させていただきます。
ご希望に添えない場合もございますので予めご了承ください。
会場や開催日のご希望がない場合には、実行委員会にて調整、決定させていただきます。
- ③ お分りの範囲で結構ですので、座長と演者をご記入ください。その後で変更が生じて構いません。
- ④ 共催セミナーも抄録の提出が必要となります。オンラインでの登録をお願いする予定となっておりますが、詳細は後日、別途ご連絡いたします。
- ⑤ 日本免疫学会として講演者を推薦させていただくことも可能ですので、ご相談ください。
- ⑥ 当日配布用チラシ等の印刷案内物については、事前に原稿をご提出いただき、内容によっては変更をお願いすることがございます。

＜ 広 告 ＞

プログラム集広告

1	広告媒体名	2024年日本免疫学会総会・学術集会 第 53巻プログラム
2	配布対象	学会参加者・学会員・掲載企業各社(広告掲載誌として1冊お送りします)
3	発行部数	1,000部
4	版 型	A4 変形
5	掲載料金	表 4 : 1頁(4色) ¥220,000-(税込) 1枠 表 2 : 1頁(4色) ¥165,000-(税込) 1枠 表 3 : 1頁(4色) ¥132,000-(税込) 1枠 記事 中 : 1頁(4色) ¥110,000-(税込) 4枠
6	原 稿	サイズ:タテ280mm×ヨコ210mm (A4サイズでご提出の場合は、タテ280mmに合わせて縮尺を調整させていただきます) 完全データ(illustrator もしくは印刷用 PDF)にてご入稿下さい。 Adobe illustrator の場合、フォントは全てアウトライン化、画像は埋込でお願いします。制作環境(OS と illustrator のバージョン)を明記の上、確認用 PDF と同送してください。原稿は形式にかかわらず <u>CD-R</u> では受け付けられませんのでメール添付またはデータ便をご利用下さい。
7	原稿締切	2024年9月13日(金)
8	申込締切	2024年9月13日(金)
9	振込期日	2024年10月31日(木)
10	作成費	¥2,244,000-(税込)

ホームページバナー広告

1	広告媒体名	第 53回日本免疫学会学術集会ホームページ
2	掲載料金	¥110,000-(税込)(1バナー、画像切替なし)
3	掲載期間	データを頂き掲載された時点から学術集会終了まで(データは各社様にてご用意下さい)
4	原 稿	日本語・英語共通 ①画像サイズ : W190px×H60px ②解 像 度 : 72px/inch ③ファイル形式 : jpeg / gif / png いずれか ④ファイルサイズ : 300 キロバイトまで ⑤そ の 他 : リンク先URL をあわせてお知らせください 上記サイズ等詳細は多少変更される場合がございますことをご了承ください
5	原稿締切	2024年10月31日(木)
6	申込期限	2024年10月31日(木)
7	振込期日	2024年11月29日(金)
8	募集数	予定3社

幕間スライド広告

1	広告媒体名	第 53 回日本免疫学会学術集会幕間スライド
2	掲載料金	¥110,000-(税込) (スライド:画像切替なし) ※「セッション前スライド広告」に申込のあったプログラムでは幕間スライド広告は映写されません
3	掲出方法	現地開催各会場スクリーン+ライブ配信画面(大会会期中)
4	原稿	1. データ形式:PPT1 枚 2. 複数の広告がある場合、5 秒ごとに表示が切り替わります(予定)
5	原稿締切	2024年 10 月 31日(木)
6	申込締切	2024年 10 月 31日(木)
7	振込期日	2024年 11 月 29日(金)
8	募集数	3 社(予定)

セッション前スライド広告 ※シンポジウム情報についてはシンポジウムテーマ一覧をご参照ください(P13)。

1	広告媒体名	第 53 回日本免疫学会学術集会 セッション広告
2	掲載料金	シンポジウム ¥220,000-(税込) ワークショップ ¥165,000-(税込)
3	掲出方法	現地開催各会場スクリーン+ライブ配信画面(大会会期中)
4	掲載内容	特定のセッションに対し、スクリーン幕間のスライドまたは動画広告(セッション開始前、2分以内)
5	原稿締切	2024年 10 月 31日(木)
6	申込締切	2024年 10 月 31日(木)
7	振込期日	2024年 11 月 29日(金)
8	募集数	シンポジウム 6社(予定) ワークショップ7社(予定)

配信システムバナー広告

1	広告媒体名	第 53 回日本免疫学会学術集会オンライン配信システム バナー広告
2	掲載料金	¥110,000 -(税込) (1バナー)
3	掲載期間	配信システム公開期間中
4	原稿	バナー提出サイズ : 500px×500px (※表示時は縮小されることがございます) リンク先 URL を合わせてお知らせください。
5	原稿締切	2024年 10 月 31日(木)
6	申込締切	2024年 10 月 31日(木)
7	振込期日	2024年 11 月 29日(金)
8	募集数	3 社(予定)

< 配信システムバナー広告 掲載イメージ >

※実際の仕様と異なる場合があります。

申込方法 学術集会ホームページよりお申し込みをお願いします。



< 展 示 >

免疫学に関連のある医薬品、ワクチン、医・理科学機器、試薬(抗血清・抗体等)、実験動物用器具、受託サービス等および書籍の展示会を開催し、参加者の皆様に最新情報を提供しております。展示会会場は、多くの参加者が気楽に訪れることができるようにいたします。サイエンス情報交換の場、そして企業様と産学交流の場として、活発な討論がなされるものと期待しております。

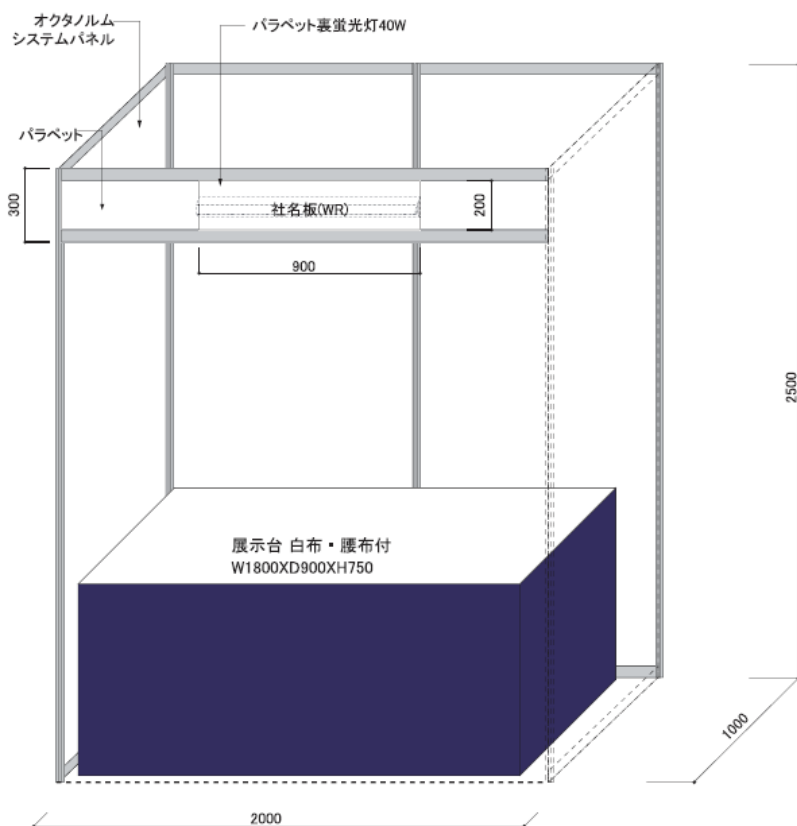
展示会

タイプ	単位	単価	対象
A	1 小間	¥297,000- (税込)	機器・試薬・ソフトウェア・受託サービス等
B	1 小間	¥264,000- (税込)	アカデミック(大学や公的機関の研究施設等)
C	1 テーブル	¥16,500- (税込)	書籍(最低 6 テーブルからの受付となります) テーブルサイズ W1800×D900×H700

Aタイプ/Bタイプ

小間サイズ : W2,000mm×D1,000mm×H2,500mm
 社名板 : W900mm×H200mm
 白地にスミゴシック文字
 照明 : パラペット裏 蛍光灯(40W 1灯)
 展示台 : W1,800mm×D900mm×H750mm
 パイプ椅子 : 1脚
 募集小間数 : 55小間(予定)
 展示会場 : 出島メッセ コンベンションホール

※左記以外のものはオプションとなります
 ※電力料金は後日別途お見積もりとさせていただきます
 ※壁面へは釘、鋸、ピン等一切打ち込みは出来かねます
 ※独立・島小間等の規定や展示に関わります詳細は、
 後日出展要項にてお知らせをいたします



スケジュール(予定)

申込締切 : 2024年 9月13日(金)
 振込期日 : 2024年10月31日(木)
 搬入 : 2024年12月2日(月)
 展示会 : 2024年12月3日(火)~12月5日(木)
 搬出 : 2024年12月5日(木)
 ※詳細は後日出展要項にてお知らせいたします

申込方法 学術集会ホームページよりお申し込み
 をお願いします。

第53回日本免疫学会学術集会

収支予算書

収入の部

費目	単価	数量	金額
1 参加費		1,750 名	¥18,870,000
事前	事前合計	1,300 名	<u>13,040,000</u>
正会員	12,000 ×	790 名	9,480,000
学生会員	2,000 ×	280 名	560,000
非会員	15,000 ×	180 名	2,700,000
非会員学生	6,000 ×	50 名	300,000
当日	当日合計	450 名	<u>5,830,000</u>
正会員	14,000 ×	180 名	2,520,000
学生会員	3,000 ×	70 名	210,000
非会員	17,000 ×	170 名	2,890,000
非会員学生	7,000 ×	30 名	210,000
2 懇親会参加費		350 名	¥905,000
事前 一般	3,000 ×	220 名	¥660,000
事前 学生	500 ×	70 名	¥35,000
当日 一般	4,000 ×	50 名	¥200,000
当日 学生	1,000 ×	10 名	¥10,000
3 共催セミナー			¥37,180,000
Clinical/Technical Seminar	2,200,000 ×	3 件	6,600,000
Afternoon Seminar	1,870,000 ×	12 件	22,440,000
Evening Seminar	2,200,000 ×	2 件	4,400,000
Evening Seminar	1,870,000 ×	2 件	3,740,000
4 展示会			¥15,427,500
A (現地/機器・試薬等)	297,000 ×	50 小間	14,850,000
B (現地/アカデミック)	264,000 ×	2 小間	528,000
C (現地/書籍)	16,500 ×	3 本	49,500
5 広告			¥1,947,000
表4	220,000 ×	1 社	220,000
表2	165,000 ×	1 社	165,000
表3	132,000 ×	1 社	132,000
後付1頁	110,000 ×	4 社	440,000
ホームページバナー	110,000 ×	1 社	110,000
幕間スライド	110,000 ×	1 社	110,000
セッション広告(シンポ)	220,000 ×	1 社	220,000
セッション広告(WS)	165,000 ×	1 社	165,000
配信システムバナー	110,000 ×	1 社	110,000
シンポジウム協賛	275,000 ×	1 社	275,000
6 寄付・助成・補助金			¥8,500,000
長崎観光協会	1,000,000 ×	1 式	1,000,000
日薬連	3,000,000 ×	1 式	3,000,000
賛助寄付金(企業)	1,000,000 ×	1 式	1,000,000
民間財団助成金	1,500,000 ×	1 式	1,500,000
AMED	2,000,000 ×	1 式	2,000,000
合計			¥82,829,500

支出の部

費目	金額
1 事前準備費	¥16,630,570
1) 事務局設置費 1式	6,374,225
2) Webシステム経費 1式	4,919,420
3) ホームページ製作 1式	1,320,000
4) 印刷製本費 1式	3,197,700
5) 消耗品費 1式	473,550
6) 通信・運搬費 1式	345,675
2 当日運営費	¥63,538,247
1) 会場費 1式	10,729,788
2) 機材費 1式	11,083,510
3) 装飾関係費 1式	6,348,870
4) 人件費 1式	7,631,029
5) 招聘費 1式	17,901,500
6) 会議費 1式	9,007,550
7) 運営諸経費 1式	836,000
3 事後処理費	¥44,000
1) 事後処理費 1式	44,000
4 予備費	¥2,616,683
合計	¥82,829,500

< 賛助寄付金 >

賛助寄付金

第 52 回日本免疫学会学術集会は、学会員をはじめ参加者の皆様方と活発な討論ができる場を提供できるよう、現地開催とオンライン開催のハイブリッドを想定し準備を進めております。第 52 回日本免疫学会学術集会の目的・趣旨にご賛同いただき、何卒ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

●募集期間 : 2024 年 1 月 5 日(金)～2024 年 12 月 2 日(火)

●目標金額 : ¥4,000,000-

●寄付金の用途

2024 年 12 月 3 日(水)～5 日(金)にて開催される第 53 回日本免疫学会学術集会の準備、運営及び関連諸行事等の費用に充当させていただきます。

●申込方法

学術集会ホームページの寄付申込フォームに必要事項をご記入くださいますようお願いいたします。

なお、賛助寄付金をお振込みいただきます際には、2024 年 10 月 1 日以降でお願いいたします。

●税法上の取扱い

寄付金受領証明書が必要な際には、下記の特定非営利活動法人日本免疫学会事務局へご一報ください。

〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町 1-4-2 KUMAKI ビル 2 F

TEL: 03-5809-2019 E-mail: conf@jsi@meneki.or.jp

< キャンセルポリシー >

解約について

申込み受理後は、組織委員会が不可抗力と認めた事象以外は原則解約することはできません。組織委員会が解約を認めた場合には、出展解約理由を書面にてお送りいただき、受領した日を基準として解約料金をお支払いください。

※解約料金

申込締切日までに受領した場合…請求額(協賛料金)の 50%をお支払いください。

申込締切日以後に受領した場合…請求額(協賛料金)の全額をお支払いください。

天災・その他のやむを得ない事情、並びに主催の責任に帰し得ない原因により、大会および展示会の開催を変更・中止する場合があります。この変更により生じた協賛各社の損害は補償できかねます。前述の原因により開催中止、又は開催形式が変更になった場合は、主催は協賛各社に対し、共催費・協賛費から準備費用を除いた金額を算出し、請求又は返金致します。

< 連絡先 >

運営準備室

Address : 〒532-0003 大阪市淀川区宮原2-14-14
新大阪グランドビル6F 株式会社エー・イー企画内

T E L : 06-6350-7163

E-mail : e_jsi2024@aeplan.co.jp

Website : <https://www2.aeplan.co.jp/jsi2023/>

第53回シンポジウムテーマ一覧(予定)

シンポジウムテーマ
脳、神経と免疫/ imaging
老化を制御する免疫
腫瘍免疫/細胞療法
慢性炎症、繊維化
免疫制御と免疫寛容
JAK阻害剤などサイトカイン制御の進歩
コロナ感染症と免疫
自然免疫センサー
免疫記憶 T&B
ヒト免疫
システム免疫、scRNA、TCR、BCR解析、細胞療法
免疫細胞系譜
アレルギー学会ジョイント企画
リウマチ学会ジョイント企画
免疫代謝
常在菌と免疫